日本商工会議所
The Japan Chamber of Commerce and Industry

業種別の動向

前月と比べたDI値の動き　↗ 改善　→ ほぼ横ばい　↘ 悪化

建設業

中東情勢の緊迫化に伴う調達困難化や資材価格の上昇が落ち着きを見せる中、価格転嫁の進展により採算性が向上し、改善。さらに、補助金活用によるコスト負担の軽減やAI活用など、企業側の主体的な取り組みも奏功している。

- 「建設・住宅資材の供給状況は５～６月頃と比べて改善傾向にあり、調達の偏りや目詰まりの解消が進んでいる。資材価格も依然として高水準ではあるものの、上昇ペースは落ち着いてきたように感じる」（一般工事業）
- 「人材確保のために基本給の引き上げを行った結果、賃上げ環境整備に係る補助金が適用され、コスト負担の軽減につながった」（電気通信工事業）

製造業

エネルギー・原材料価格の上昇に、猛暑による生産性の低下が重なり、悪化。一部事業者からは、熊本地震や千葉豪雨といった自然災害による生産への影響が聞かれている。

- 「エルニーニョ現象の影響で飼料相場が高騰していることに加え、円安や燃料高の影響で調達コストが上昇し、すり身価格が急騰している」（食料品製造業）
- 「熊本地震や千葉豪雨で同業者や取引先の自動車メーカー等が被災し、生産に影響が出ている。年々BCPの重要性が増しており、対策の有無が企業の明暗を分けると実感している」（鉄鋼業）

卸売業

仕入価格の高騰に対して販売価格への十分な転嫁が進まない中、熊本地震の影響による供給の滞りも相まって、悪化。販売先での在庫積み増しの反動や、物価高に伴う節約志向の高まりによる需要の冷え込みを指摘する声も聞かれた。

- 「熊本地震の影響により、取引先の製粉会社が出荷停止となったことで調達期間が大幅に長期化し、事業活動の停滞を余儀なくされている。原材料の高騰と供給網の滞りという二重の打撃により厳しい経営状況が続いている」（飲食料品卸売業）
- 「中東情勢の影響による供給難は解消されたが、販売先は既に在庫を厚くしているため、足もとの需要は弱く、当面の受注は減少見込み」（包装資材卸売業）

小売業

夏休み需要に伴う帰省客の増加や地域イベント・催事の効果で客足が伸び、改善。消費者の節約志向は高まっているものの、体験イベントへの引き合いが強く、集客を後押ししている。

- 「お盆期間中の帰省客や地域イベントにより集客効果が高まっており、売上の回復が見込まれる。交通インフラの制約や人手不足といった課題は残るものの、この好機を生かして集客・営業活動を強化する」（総合スーパー）
- 「夏休み期間中にイベントを複数回開催したところ、全て満員となった。顧客満足度が向上したほか、若年層の認知度アップにもつながった」（菓子小売業）

サービス業

夏休み需要に伴う観光・帰省客の増加による客足の伸びが全体を牽引し、改善。一方で、九州地方の旅館・飲食店を中心に、熊本地震による予約キャンセルの発生や今後の風評被害を懸念する声も聞かれた。

- 「円安の影響からか国内で過ごす人が増え、お盆期間中の需要が大幅に高まった。当地も多くの人手に恵まれ賑わった」（飲食店）
- 「熊本地震の影響により予約キャンセルが一時急増したものの、８月以降は支援目的の来訪者が増加し、稼働率は回復傾向にある。一方で、会合の自粛傾向が続いている」（旅館）